

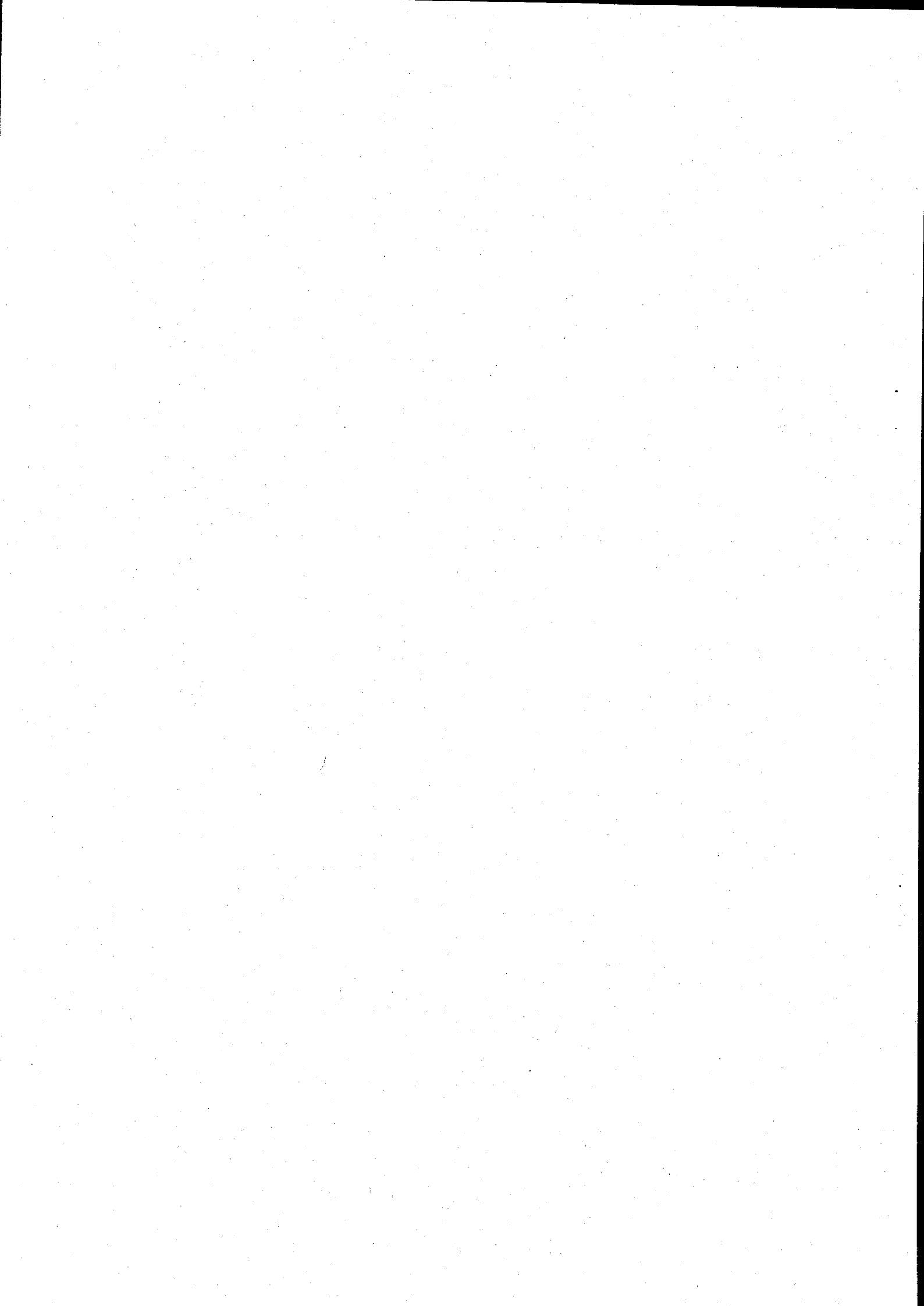
平成19年版

(参考)

徳島県観光動態調査

外国人入込客数の状況について

徳島県観光戦略局



平成18年 徳島県観光動態調査 外国人入込客数の状況について

国では、外国人旅行者の誘客を促進するためのビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）が推進されており、本県においても、関西や四国という広域連携を活用したVJC地方連携事業などにより、外国人旅行者の誘客促進を行うと同時に、徳島県国際観光テーマ地区推進協議会を中心として受入態勢の整備に努めてきた。

この施策評価の指標の一つとして、また本県における外国人旅行者の動向を把握するために、今年から県内市町村に対し、外国人旅行者の入込（宿泊）客数を調査することとした。

概要は、次のとおりである。

1 調査方法

県内市町村へ各市町村管内の観光地点及び宿泊施設の外国人入込調査を依頼。

2 調査期間

平成17年(1月～12月)及び平成18年(1月～12月)

3 調査対象

徳島県観光動態調査と同じ。(観光地点及び宿泊施設)

4 調査結果

(1) 回答市町村

調査回答のあった市町村は次のとおりである。

① 観光地点

回答市町村:9市町 35地点 ※

徳島市, 鳴門市, 阿南市, 美馬市, 神山村, 那賀町, 藍住町, 上板町, 東みよし町

分類別	自然	文化・歴史	産業観光	スポーツ・レクリエーション	温泉	買物	行事・祭事	イベント	計
徳島市				1					1
鳴門市		3		1		1			5
阿南市		2							2
美馬市				2	2				4
神山村				1	1				2
那賀町			1	2		1			4
藍住町			1						1
上板町	1	1	1			1			4
東みよし町	2			2	1	3		4	12
計	3	6	3	9	4	6	0	4	35

※回答市町村とは、回答があり、外国人入込客があった市町村のこと。

② 宿泊施設

回答市町村:10市町 52施設 ※

徳島市, 鳴門市, 阿南市, 阿波市, 美馬市, 神山村, 海陽町, 板野町, 上板町, 東みよし町

分類別	ホテル・旅館	民宿・ペンション	公共宿泊施設	社会教育施設	キャンプ場・その他	計
徳島市	14					14
鳴門市	4	2				6
阿南市	6	1				7
阿波市	2					2
美馬市	7					7
神山村	1					1
海陽町	5	1			1	7
板野町	1					1
上板町		2				2
東みよし町	3				2	5
計	43	6	0	0	3	52

客室数別	0～50室	51～100室	101～150室	151室以上	計
徳島市	4	5	1	4	14
鳴門市	3	2		1	6
阿南市	6		1		7
阿波市	2				2
美馬市	7				7
神山村	1				1
海陽町	7				7
板野町	1				1
上板町	1	1			2
東みよし町	5				5
計	37	8	2	5	52

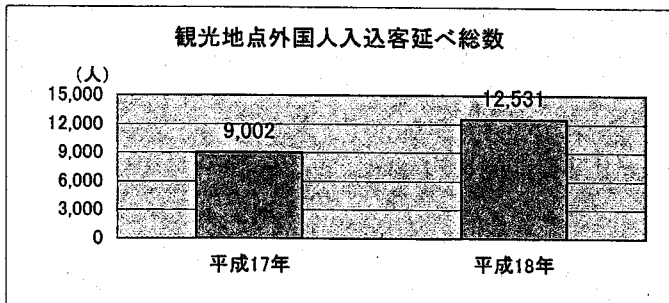
※回答市町村とは、回答があり、外国人宿泊客があった市町村のこと。

(2) 結果概要

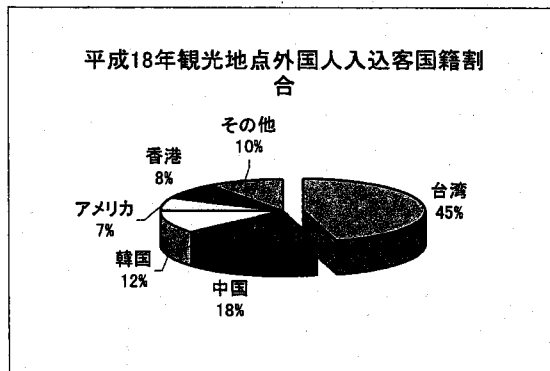
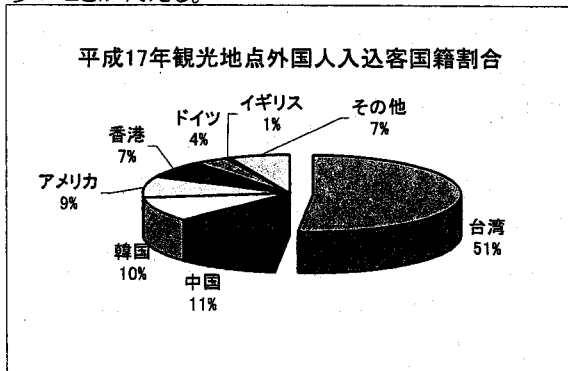
結果概要については、次のとおりである。

① 観光地点

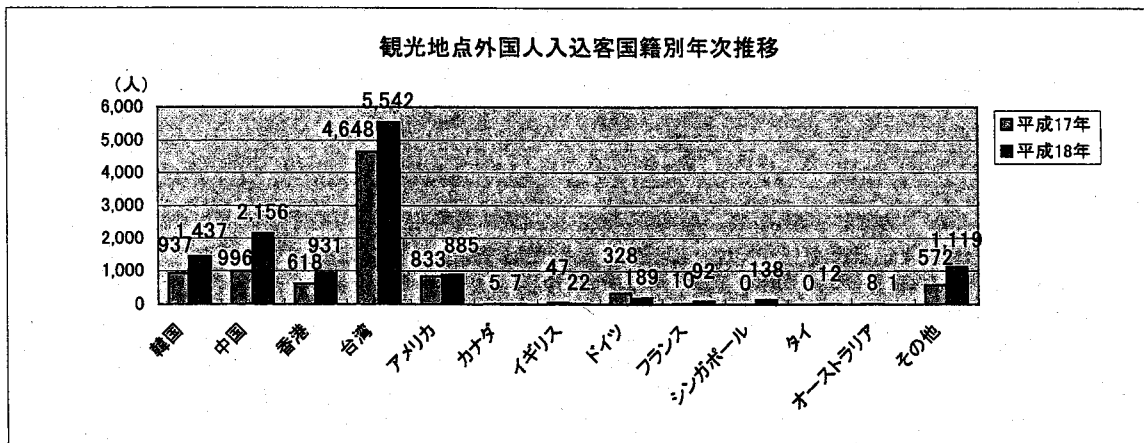
県内観光地点を訪れた平成18年の外国人入込客延べ総数は、平成17年と比較すると約3,500人以上増加(39.2%増)している。



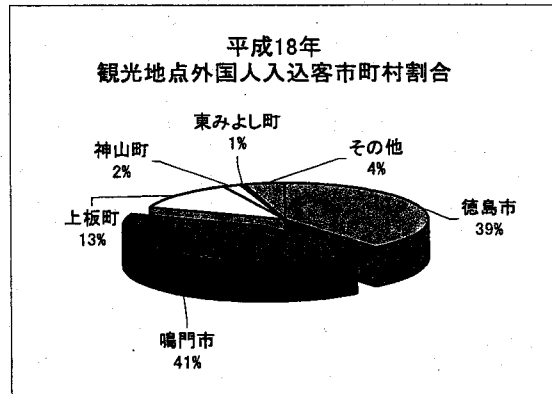
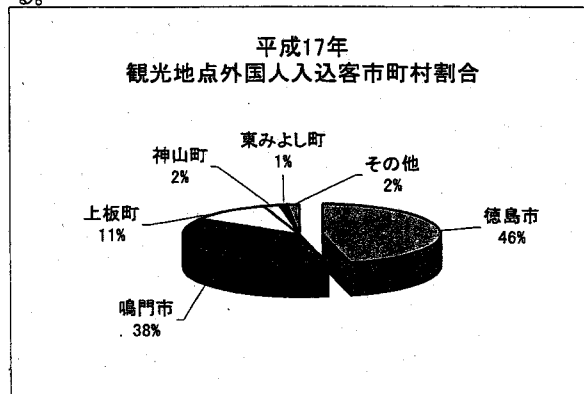
国籍別に分類すると、各年とも台湾が最も多く、続いて中国、韓国となっており、東アジアからの観光客が多いことが伺える。



国籍別の年次推移をみると、台湾、中国、韓国、香港などが前年に比べて増加している。

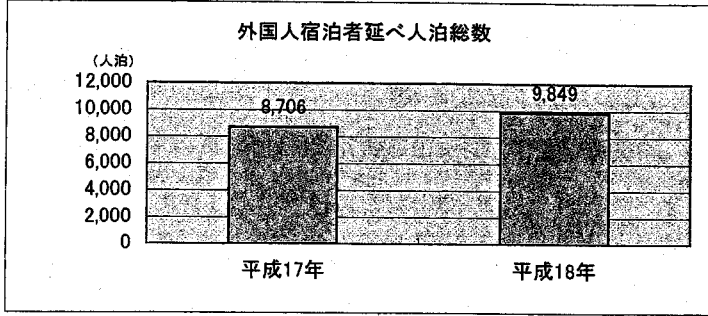


市町村割合では、平成17年は徳島市が最も多く46%、平成18年は鳴門市が最も多く41%を占めている。

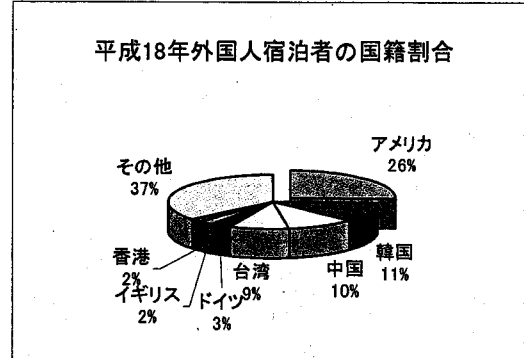
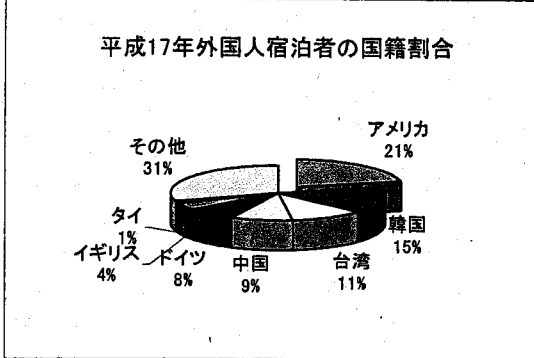


② 宿泊施設

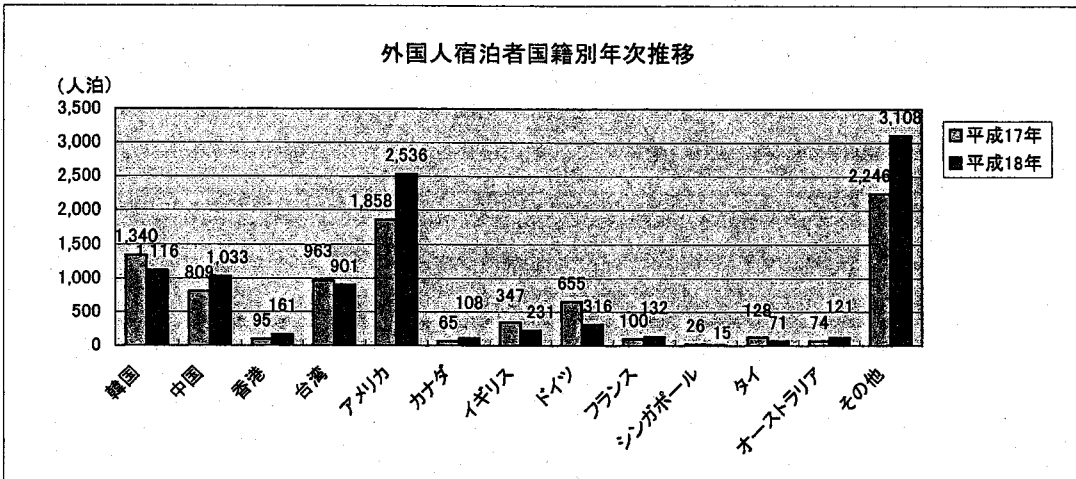
県内宿泊施設に宿泊した平成18年の外国人宿泊者延べ人泊総数は、平成17年と比較すると約1,100人以上増加(13.1%増)している。



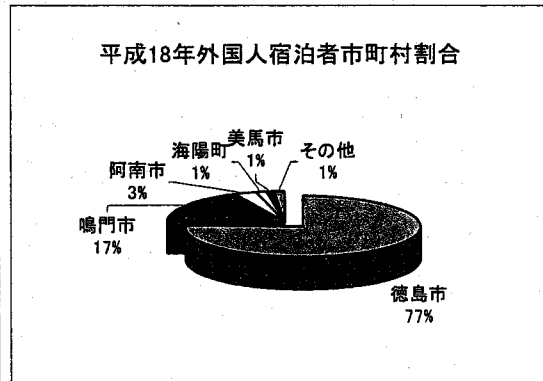
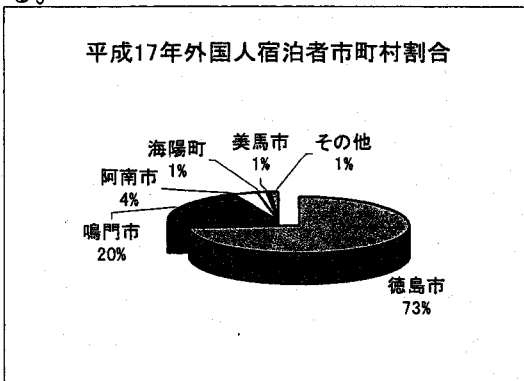
国籍別に分類すると、各年ともアメリカが最も多く、続いて東アジア(韓国、中国、台湾)の順となっている。



国籍別の年次推移をみると、アメリカ、中国、香港が増加している。



市町村割合では、各年とも徳島市が最も多く、次いで鳴門市、阿南市の順となっている。



③ 平成18年の状況

観光地点の外国人入込客延べ人数では、台湾が最も多いが、外国人宿泊客延べ人数は、アメリカが最も多い。これは、台湾人旅行者は、県内で宿泊しない周遊型の団体旅行が多く、アメリカなどの欧米旅行者は、個人自由旅行者かビジネス客のどちらかが多いものと推測される。この傾向は、平成17年も同様であった。

